ふるさと歴史発見

第二十三回 築上町の大きな木

夏になり、山の緑も濃くなってきました。下本庄にある国指定天然記念物「本庄の大楠」も青々と葉が茂り、時折風が吹くと枝が揺れて葉の擦れる音が我々に涼を感じさせてくれます。

本庄の大楠は樹齢一九〇〇年と言われ、樹高は約二六m、胸高周囲約二一mもあり、全国第四位の規模を誇るクスノキです。また大楠は宇佐神宮本殿の式年遷宮（定期的な社殿の建替え）の際に用材切り出しに先立って行われる御杣始祭（みそまはじめさい）（造営開始の祭典）の会場にもなっており、古来より宇佐神宮と関わりの深い木でもあります。

ところで宇佐神宮と関わりの深い木と言いますと、町内には小原正八幡神社正面鳥居右側に根幹部分が一体となった特異な樹形のクスとイチイガシがあります。どちらも樹齢二〇〇年程度と推定され、特にイチイガシについては地元では宇佐神宮にあるイチイガシと兄弟木であると伝承されています。

イチイガシはブナ科コナラ属の常緑高木で、その実は縄文時代、食糧として重宝されました。

町内には伝法寺の岩戸見神社に樹高三四m、胸高周囲四八〇cm、推定樹齢四五〇年以上のイチイガシがあります。イチイガシは神社に植栽されることが多く、これは本来、社殿建替えの際の建築用材として使用する目的で植えていたようです。

櫟原の貴船神社参道際に植えられたケンポナシは樹高三五m、胸高周囲二六〇cmの大木で樹齢は一五〇年以上と推定されています。秋には人が天秤棒を担いだような形の二～三cm程度の大きさの奇妙な実が生り、かじると梨のような甘い香りが口中に広がります。

かつては近隣の神社地に御神木として多数植えられていたそうですが、いずれも枯れてしまい、今ではここを含めてわずかに見られる程度だそうです。

最後に小原不動窟の大ソテツを紹介します。ソテツは元々九州以南に自生する南方系の常緑低木で、江戸時代以降、大名庭園や寺社地に好んで植えられました。ここ小原不動窟の大ソテツのある場所も江戸時代以前は「明剱山光雲寺」が所在しており、寺地の一角に植えられたものと考えられます。なお、ソテツは成長が大変遅く、二〇～三〇年かかってわずか数センチしか成長しません。樹齢は二〇〇年以上と推定されます。

今回紹介した築上町の大きな木はいずれも文化財に指定されています。夏の涼を求めて大きな木めぐりはいかがですか。身も心も癒されますよ。

（文化財保護係　馬場克幸）

▲本庄の大楠（平成２１年度から継続して土壌改良工事を実施しています。今年も１０月から実施予定です。）

▲小原正八幡神社のイチイガシとクス（左側がイチイガシ。右側がクス。昨年度、町文化財に指定されました。）

「豊前宇都宮氏と豊臣政権」歴史シンポジウム

来年の大河ドラマ『軍師　官兵衛』を前に黒田氏の宿敵宇都宮氏の歴史を学んでみませんか。ドラマ時代考証の小和田哲男さんの講演があります。

戦国時代、豊臣秀吉の九州統一後、黒田氏の領国となった豊前国では城井鎮房、野仲鎮兼を中心に豊前宇都宮氏一族の反乱が起こった。巨大権力の豊臣政権に対して、地方のわずかな勢力の宇都宮氏がなぜ反旗をひるがえしたのか。下野国、伊予国、豊前国の宇都宮氏の全体像を明らかにしながら、宇都宮氏一族の反乱と滅亡の歴史的背景と意義を地域の立場から検証します。

日時　7月14日（日）13：00～17：00　※入場無料

会場　コマーレ（大ホール）

講演　「豊臣政権と九州統一」
小和田哲男（静岡大学名誉教授）
ＮＨＫ大河ドラマ『軍師 官兵衛』時代考証

報告

「中世宇都宮氏の成立と展開」市村　高男（高知大学教授）
「伊予宇都宮氏について」土居聡朋（愛媛県歴史文化博物館）
「豊前宇都宮氏と黒田氏」則松　弘明（豊前宇都宮氏研究者）
「城井谷の城館」高尾　栄市（築上町教育委員会）

※事前に電話でお申込ください。

申込・問い合わせ　船迫窯跡公園　（５２）３７７１
（月曜日休館）

▲宇都宮信房肖像

▲宇都宮氏館跡（松丸）